

石垣原合戦

大友本陣の歌

平次郎

一九州探題

大友と

飛ぶ鳥落とす 勢の
榮華の夢もうたかたに

僅かに護る

一千の

杏葉の旗

月寒し

二敵は黒田ぞ 不足なし

目にも見せん大友の

武士の最後を飾らん

月見の宴

吉弘の

出陣の舞 さわやかに

三さらば出陣 大楠も
梢を鳴らし 大將旗

朝日に映えて 精銳が

黒田の陣へ 突撃の

喚聲 鶴見の山 揺する

四汚名をすくこの戦

徒には死なぬ 故勢を

七度崩し 大友の

武士の誇りに 草枕

石垣原の 露と消ゆ

監修 安部 崋
編曲 三浦 文
歌 山本 末子

竈門荘の荘域

土屋 公 照

宇佐弥勒寺領「竈門荘」は、宇佐八幡の神宮寺である弥勒寺の社僧を宇佐氏族より養成する学費を賄うため、聖武天皇によって「壘田百町」が弥勒寺に寄進されたことに始まる初期荘園である。

この竈門荘の荘域に関する詳しい史料が残っていない。おそらく弥勒寺の火災や、竈門氏の忽然としての失跡に関係があるだろう。そこでこの荘域を推定してみた。

まず荘園の広さに関する史料を列記すると。

- (一) 平安末期の成立と推定されている『石清水文書』にある「弥勒寺喜多院所領注進状」には、各国ごとに弥勒寺領荘園が記されているが、豊後国の最初に竈門荘七十町とある。

- (二) 源平争乱期の宇佐宮のことを書いた「元暦文治記」では、竈門荘百町とある。